［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　　平成21年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2671200463
法人名	医療法人栄仁会
事業所名	グループホーム　おおわだの郷
所在地	〒611-0011　京都府宇治市五ケ庄折坂55番地 （電　話）0774-38-2715

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1　ひと・まち交流館　京都1階
訪問調査日	平成20年12月16日　　評価確定日　　平成21年2月19日

【情報提供票より】（平成20年11月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16　年　9　月　1　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	24　人	常勤　13 人，非常勤　11　人，常勤換算　15.9人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	70,000　円		他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	○有（25万円） 無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	320　円	昼食	430　円
	夕食	600　円	おやつ	200　円
	または1日当たり　1550　円			

（4）利用者の概要（　11　月　1　日現在）

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	1　名	要介護2	5　名		
要介護3	5　名	要介護4	7　名		
要介護5	0　名	要支援2	0　名		
年齢　平均	83 歳	最低	70　歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人栄仁会宇治おうばく病院　木沢歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宇治市黄檗山万福寺の近く、新築の和風木造住宅があたりの住宅街に溶け込んでいる。宇治おうばく病院の半世紀にわたる活動から、「地域に貢献したい」、「誰でも利用しやすい安い利用料で」と開設されている。地域に愛され、受け入れられるようなグループホームであることを当初から目指しており、町内会や運営推進会議等を通じて理解が深まってきている。精神保健福祉士の資格をもつ管理者と看護師兼ケアマネジャーはいずれも病院で認知症ケアの経験が長く、50歳代と60歳代を主力とする職員ともどもやわらかい人柄と利用者への親身な気遣いをもっており、意見が言いやすい雰囲気のなかで業務に励んでいる。200円のおやつ代も食べない場合の料金的な配慮をしたり、昨年は家族が連れて行くことが困難な重度の利用者を中心に1泊旅行をすることになり、旅行の好きな利用者にその企画を任せたり、ある利用者の希望により毎月猿丸神社にお参りに連れて行くなど、きめ細かい個別対応をしている。グループホームとして求められる生活支援についてはほぼできており、利用者にとってゆったりした時間が流れている。「ピザが食べたい」、「誕生祝いなど晴れがましいことはしてほしくない」等々、利用者はわがままの言える毎日である。

項	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	昨年度までの評価で指摘された点として、利用者の生活歴の収集、利用者のプライバシーの確保等が改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は職員の意見をまとめている。ユニットによって違った表現や結果になっているのは、それぞれのユニットにおいて、日常の業務を振りかえっていると思われる。
項	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	要綱はないものの、利用者、家族、区長、地域包括支援センター職員をメンバーとして2カ月に1回開催され、記録が残されている。利用者のこと、行事の内容等、グループホームからの紹介が多いが、徐々に地域に理解される助けになっている。一方、グループホームとしては地域情報を得る良い機会になっている。民生委員、消防署員、交番のおまわりさん、小中学校長、PTAの人など、幅広いメンバーが参加することが期待される。
項	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族からの意見はいままでもほとんどないのが現状である。家族交流のために行事招待をしても、参加がほとんどない。家族の認識が「病院にお願いしている」というふうになっていると思われる。
項	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入し、地域の祭り、運動会、地蔵盆などに参加している。子ども110番の取り組みに協力している。近くの小学校の3年生が自分たちでプログラムを考えて来訪してくれ、楽しいときを過ごすことができた。また社会見学のコースにも入っている。保育園児は敬老会の日に来訪してくれた。近くのボランティアが定期的に来訪し、利用者の話し相手になってくれており、利用者も楽しみに待っている。

社団法人京都ボランティア協会２００８

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を踏まえて、グループホームおおわだの郷の理念を「地域の中に根付き、地域の中で愛され、地域の人びとともに歩む」と定め、利用者の手により書かれたものを玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームが開設されたときからの課題として、地域の中で自然に受け入れられるグループホームでありたいと目指しており、日常の業務のなかで、地域とのかかわりを試行錯誤している。近隣住民が気軽に訪問してくれることを願っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の祭り、運動会、地蔵盆などに参加している。子ども110番の取り組みに協力している。近くの小学校の3年生が自分たちでプログラムを考えて来訪してくれ、楽しいときを過ごすことができた。また小学生の社会見学のコースにも入っている。保育園児は敬老の日に来訪してくれた。近くのボランティアが定期的に来訪し、利用者の話し相手になってくれており、利用者も楽しみに待っている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見をまとめており、ユニットによって違った表現や結果になっているのは、それぞれのユニットにおいて日常の業務を振りかえった結果の表現だと思われる。昨年度までの評価で指摘された点として、利用者の生活歴の収集、利用者のプライバシーの確保等が改善されている。その上個別ケアが進んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱はないものの、利用者、家族、区長、地域包括支援センター職員をメンバーとして2カ月に1回開催され、記録が残されている。利用者のこと、行事の内容等、グループホームからの紹介が多いが、徐々に地域に理解される助けになっている。一方、グループホームとしては地域情報を得る良い機会になっている。民生委員、消防署員、交番のおまわりさん、小中学校長、PTAの人など、幅広いメンバーがこれから参加することが期待される。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宇治市介護保険課地域密着型サービス係長と連携をとっており、他のグループホームから移ってくる場合の初期加算の件、料金改定に関する件など、相談に応じてもらっている。今年度は宇治市が認知症地域支援体制のモデル事業を実施しており、当ホームの管理者がメンバーとなり、認知症やグループホームについての話をしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は毎日の人もあり、大体月に1回はきておられるので、その際に情報交換している。毎月請求書の発送時に利用者の状況を書いたものを同封している。ホームだよりはつくられていない。	○	利用者ごとに担当職員が決められているので、毎月の発送時に、担当職員が手書きのお便りを書き、また写真を添えたりして、家族に送ることにより、グループホームの運営に関心をもち、協力してもらえるようになることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見はいままでもほとんどないのが現状である。家族交流のために行事招待をしても、参加がほとんどない。家族の認識が「病院にお願いしている」というふうになっていると思われる。	○	家族とも連携してグループホームの運営を進めていくことが大事なので、来る人が少ないとしても行事に招待したり、お茶に来てもらったり等、種々の取り組みを今後も進めていくことが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今回法人が近くにグループホームと小規模多機能型居宅介護事業の併設した事業所を立ち上げたため、職員が5人異動している。利用者に挨拶していくが、利用者も寂しいと言っている。引継ぎはメールなどで適切に行っている。よくありがちな安易な退職はなく、職員はやりがいをもって働いている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修には力を入れており、実践者研修とリーダー研修には毎年1名を受講させている。その他法人内研修、京都府認知症グループホーム協議会の研修などの受講をしている。外部研修は職員の意欲に任せているが受講希望者が多い。職員一人ひとりの課題については、管理者と個人面談により話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府認知症グループホーム協議会に加盟しており、他のグループホームとの交流は職員レベルでも図られている。今後もさらに種々のグループホームと職員が交流することが期待される。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に1泊したり、1日を過ごしたりすることを勧めている。1泊したのち、利用をやめた人もいる。家族と本人が見学に来て、ゆっくりと過ごしていくことが多い。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事のあとがゆったりした気分になっているので、1時間くらいは利用者のそばにいて、話をしている。そのときの話の内容によって、職員は親子になったり、嫁になったり、息子や孫になっている。演技力が求められる。なかなか寝ない人に、「明日テストで勉強したいので、早く寝てください」ということもある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時には入居者基本情報、介護保険情報等々の情報を収集している。そのなかにかなり詳細な生活歴が聴取されており、性格、趣味、ADL等々の情報が記録されている。本人や家族の意向も聴取されている。こういった情報を介護計画に反映すること、また介護計画はプラス志向の個別具体的なものであることの点で、少し不十分である。	○	収集した生活歴を生かした介護計画にすること、また介護計画は利用者に生きがいをもってもらえるようなプラス方向での、個別具体的なものにすることが望まれる。
——					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用開始時には管理者とケアマネジャーが上記の情報を収集し、担当職員を決め、3人で介護計画を作成している。それをスタッフ会議にかけ、職員からの意見を聞き、修正後本人や家族の同意をとっている。本人と家族からリハビリテーションをしてほしいという希望があり、提携病院のPTによりリハビリテーション計画が作成され、毎月実施されているなど、本人の意向を踏まえている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3カ月に1回行われており、介護計画の見直しの必要性が生じたときは再アセスメントを行っている。介護記録が介護計画に沿って書かれていないので、モニタリングの根拠として不十分である。	○	利用者の日々の介護記録は介護計画の項目に沿って書くこと、その際、介護計画を実施したかどうか、実施したときの利用者の発言や表情、ケアワーカーの観察、考察を書くことが、モニタリングにつながり、ひいては職員の介護力のアップにつながると思われる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの2階で認知症対応型デイサービスをしており、イベント時なども含めて、利用者はデイサービスの利用者と日常的に交流しており、気分転換になっている。また利用者の個別外出には力を入れており、毎日外へ出たい人、墓参りに行きたい人、特に行きたいところがある人等に、支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医、精神科医、認知症専門医、歯科医等には、職員同行で定期受診、緊急時受診等をおこなっている。また退院時にはサマリーも入手している。その他眼科医、整形外科医等には家族に同行をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望があれば、ターミナルケアに取り組むという基本方針はあるが、明文化はされておらず、マニュアルはなく、職員への研修もおこなっていない。終末期に関する家族の意向はそれとなく聴いているが同意書等はとっていない。職員は不安を持っている。	○	職員間で十分話し合った上で、グループホームおおわだの郷としての基本方針を明文化し、本人や家族の意向確認とマニュアル作成が求められる。職員には研修や実施したグループホームでの経験交流等が望ましい。
１．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室のドア、トイレのドア等の開けっ放しはないように、トイレ誘導等の声かけなども十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活のなかで、職員の業務の都合に合わせているのではないかという反省を常に行いながら、利用者の思いにしたがって支援しようとしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望も聞きながら、臨機応変に立て、買い物に行っている。調理の下ごしらえや盛り付け、配膳等、利用者がしている。季節感があり、和風、洋風、中華風等、バラエティに富んだ献立になっており、味付けもおいしい。外食は毎月行っている。職員も共に食べながら、会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と午後に1人から3人くらいずつ入浴している。利用者は週2回から3回入浴できている。マンツーマンの同性介助である。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除は利用者がモップでしており、洗濯物を干したり、畳んだりも行っている。新聞や牛乳を取り込んだり、カレンダーは必ず自分がめくるという人もいる。生け花の名取の利用者はホーム内に花を生けている。旅行の企画を立てる人もいる。貼り絵、ちぎり絵、塗り絵、書道、編み物、刺し子等の楽しみをそれぞれがしている。ボランティアが琴、ピアノ、大正琴等の演奏をしてくれるのは楽しみである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩、玄関先での日向ぼっこ、食材の買い物等、また花見、いちご狩り、アジサイ見物、ドライブ、紅葉狩り、光のページェントを見に行く、初詣等、毎月の行事を行っている。一泊旅行は毎年実施しており、昨年はなかなか旅行に行けない重度の人を中心に城崎温泉と出石蕎麦を食べる旅行を行った。個別外出は墓参りに同行したり、宇治田原町の猿丸神社に毎月お参りに行く利用者に同行したりしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、非常口、その他、出入り口はすべて施錠していない。ユニットのドアや玄関はチャイムで感知している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、通報機、感知器、防火管理者等は設置されており、消防計画は立てられている。スプリンクラーを設置する予定にしている。備蓄も食糧や救急面について、3日分くらいを置いている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量は記録に残されている。水分摂取量と食事のカロリー値については、看護師が体重管理で点検しているが、記録に残すことも期待される。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に郵便受けやインタフォンがあり、入ると土間の下駄箱には生花が飾られている。廊下の壁には行事のときの利用者の写真や利用者がつくったクリスマスリースが飾られている。観葉植物の鉢が置かれ、居間には雑誌架があり、大きな窓から光が差し込んでいる。居間の横に和室があり、堀コタツや床の間がある。ホーム内は整頓されすぎず、家庭的な雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアには利用者がつくったクリスマスリースなどを掛けている。室内はベッド、洗面台、整理ダンスが備え付けで、そこに衣装掛け、ソファ、小机、座りやすい椅子、テレビ等を持ち込んでいる。猫が好きで飼っていた利用者が本物と見間違うような猫のぬいぐるみをおいていたり、娘さんからのバースデ-プレゼントである大きな花篭をおいていたり、米寿のお祝いに京都府知事から贈られた漆の額を飾っていたりしている。		